

日本海水学会第4回若手の集いを終えて

岡村 秀雄*

日本海水学会第55年会の1日目(6月8日)、岡山大学生協を会場に第4回若手の集いが開催されました。翌日からの講演会を前にして和気あいあいとした雰囲気の中、18時から約2時間、集いもたれました。

今回の若手の集いでは、より多くの参加者を集め、交流を深める糸口をつくるために、テーマを「企業から若手研究者への辛口提言」として、講師から話題提供いただくことにしました。幸いにして、お二人の熟練講師をお招きすることができました。当日は、講師には失礼と思いつつも(ご了解を得て)、集いの開始と同時に乾杯して、まずは一通りの自己紹介を行いました。いくぶん活舌となったところで、藤田武志氏(ナイカイ塩業株式会社 専務取締役)より「技術をサポートする科学を生み出す」と題して、話題提供いただきました。資料をもとにしながら、製塩業における工程で必要とされる技術と必要とされる理論および研究・開発のポイントを明示されました。それぞれの工程での問題点を、研究と開発の切り口から取り上げながら、製塩部門での40年のご経験をもとに、持論を披歴されました。私には、「研究のための研究であってはならない」ことが強く残りました。また、4日目の見学会の会場である自社工場のご紹介も行っていただきました。続いて、岸正弘氏(アクアシステムズ有限公司 代表取締役)には「研究にまつわる技術革新と経営戦略」と題して、話題提供いただきました。企業にとっての研究・開発とは、企業の戦略、研究・開発に必要な資質、研究・開発と産学協同などについて持論を展開されました。「私の夢と好奇心」では、現在の海水淡水化にかける情熱が強く伝わってきました。私には、「研究と開発は紙と製品であり、紙も大事だという見方、研究・開発には努力だけでなく犠牲が要求されること」が強く残りました。お二人の講師によるまさに年季の入った迫力ある語り口を紙面に語り尽くせないのが残念ですが、参加者各位の胸の中にはそれぞれ種々の言葉がとどまっているのではないかと

と思います。

今回の集いでは、このような講師からの話題提供を設定し、参加資格に年齢制限を設けなかったことが効を奏したのか、35名の参加(評議員会後の出席者12名を含む)を数えました。話題提供が終わってしばらくして顔が赤くなった頃には、評議員の方々の参加を頂きました。津田会長、西機支部長を始めとして評議員全員から自己紹介を頂き、厳しくもやさしく若手に期待を込めたお話を頂きました。学会幹部の方々と一緒に過ごす機会は通常は希有であり、いくつかの輪ができていたようです。

参加者の皆様にはご苦勞様でした。集いに参加するのは数回目という方にも何人かお会いしました。これからの記録を塗りかえて下さることを祈念しています。迫力ある話題提供をしていただいた講師の先生に深く感謝いたします。また、「若手の集い」を学会行事として計画された学会のお計らいに感謝申し上げます。同時に、この行事が次年度へと継続されることによって、小さな声が大きな意志のある声になることを祈念いたします。

あとがき

西機支部長からは半年以上前から世話役を命じられ、前回世話役の石川匡子先生にはいろいろと教えていただきました。西日本支部の幹事各位には準備段階から実施に至るまでご支援頂きました。なお、講師のお二人は西日本支部の幹事です。ご紹介して裏話とします。



* 神戸大学海事科学部 (〒658-0022 神戸市東灘区深江南5-1-1)